

「効率的なシカ捕獲を目指す現地検討会（くくりワナの設置、見回り・通報から運搬まで）」を開催しました。

令和4年5月17日、小舟山国有林において「効率的なシカ捕獲を目指す現地検討会」を開催しました。

この検討会は、鳥取県内のシカ生息数が過去10年間で約2倍に増えており県東部を中心に農林業の被害が増えていることから、設置が容易で、捕獲効率の高い新たな捕獲方法「小林式」の紹介と、狩猟者が設置したワナを林道工事関係者が通勤等の際に「ついで見回り」を行い捕獲やワナの異常があった際に狩猟者へ通報する仕組みを説明するために開催したもので、県、市町及び森林組合の担当者や猟友会の会員など41名が参加しました。

前半は「小林式」による罠設置の仕方やついで見回りの概要を説明し、後半は参加者を交えたワナ設置の実演を行いました。

参加者からは「ワナを設置する木はどのような物が良いのか」や「ワナのまわりに石が無ければ木でも良いのか」などの質問や、「ワナの設置が比較的容易だ」「使用してみたい」などの感想もあり、活発な現地検討会になりました。

また、地元の新聞社の取材もあり、検討会の様子が記事として取り上げられました。

鳥取森林管理署では、新たな捕獲方法「小林式」の普及に向け、引き続き取り組むこととしています。

(添付写真)

効率的なシカ捕獲を目指す現地検討会の参加状況



小林式誘引捕獲によるくくり罠設置の実演状況



ついで見回り・通報の概要



鳥取森林管理署

ついで見回りの概要

鳥取森林管理署の小舟山林業専用道新設工事において、「ついで見回り・通報」を検討。
 「ついで見回り」とは、狩猟者が設置した罠を林道工事関係者が通勤等のついでに見回
 りを行い、捕獲や罠の異常があった際に狩猟者へ通報する仕組み。

